ることがほぼ明らかになってきました。基壇に張り付いて残った階段の積み土の状況、巨大な凝灰岩、地覆抜き取り痕跡等々、証拠は着々と積み上げられてきています。

一方基壇上では、地覆石痕跡や石に残された火災の痕跡などから、須弥壇の規模がかつては現状より大きく、前に出ていたのではないかと想定されつつあります。

予定された終了まであと1月余り。独法化最初の、そして平城調査部久々の4人現場班による、1300年の歴史を誇る、日本史上有数の巨大寺院・興福寺との悪戦苦闘は続く。

（平城宮跡発掘調査部）

（飛鳥藤原地区）

藤原京左京七条一坊西南坪の調査

昭和40年代に建てられた市営住宅の建て替えに伴う調査で4月3日から開始しました。厚さ1m余りの盛土と旧耕作土などを重機で掘削。一週間を要しました。今回は調査の前半段階として、坪の中心を含む約2000㎡について行い、その終了後（7～9月）土盛地とした部分の調査を進める予定。現状（5月末段階）で判明している遺構は次の通りです。

大型東西棟建物1棟：桁行8間以上（約22m）、梁行2間（約6m）。建物の中心が坪を東西に二分する中軸線に揃うことから坪の中心建物（正殿）かその前の前殿と期待しましたが、調査区内には、他に大きな建物がありません。右京七条一坊西南坪のような一つの坪に整然と建物を配置した利用形態にはないようです。建物は七世紀前半の遺物を含む整地土上に建ち、それに見合う掘立柱建物も数棟あります。

大型建物の東・北方は一段低い「谷・沼」状を呈します。北東約200mにある低丘陵との間の谷地形に立地していますが、古代にそれをどのように利用していたかが課題となります。

砂層の上に粘土層が堆積し、その間の木質層には多量の木簡が含まれています。「池か？」

木質層の土をすべて整理室に持ち帰り水洗いして、木簡と「削り屑」の判読を続けています。これまでのところ「＊＊宮」「＊＊省」の文字がみえるが、他に多様な内容があり、木簡群や遺跡の性格をめぐって、多方面からの検討をしばらく続けなければなりません。

6月初めには航空写真測量。末日には「現地説明会」を予定しています。

橿原市城殿町における農業用倉庫建設に伴う調査

倉庫の建設予定地が、藤原京七条大路と西三坊大路の交差点で、本薬師寺の寺域を仕切る大垣の北西隅想定地にあたっていることから、約54㎡の調査区を設けて、5月14日～18日に調査をおこなった。想定通り、一辺1.2mの大柱穴5基を検出。逆L字形に連接することから、これが寺域北西隅の大垣と判明した。また、T字形に連接する東西・南北の幅広い溝があるものの、それが七条大路南側溝・西三坊大路東側溝であるには、大垣の北・西に位置するはずで、なお検討が必要であろう。

このほか、4月～5月には、明日香村飛鳥－石神遺跡での農業用水路の改修に伴う調査（30㎡）を行い、1989年に調査した石組溝の延長部分を確認しています。なお、水路は遺構を破壊しない工法で施工されました。

（飛鳥藤原宮跡発掘調査部）

今年度の発掘調査予定

（平城地区）

興福寺中金堂の調査

興福寺境内第一期整備事業に伴う調査を、昨年度の1月から継続して夏までの予定で行っています。調査面積は約1800㎡。中金堂の基壇が大部分の礎石とともに創建以来基本的に踏襲され続けてきたことや、階段・基壇外装・周囲の石敷の変遷、明治期に掘り出された国宝鎮壇具が置かれていた場所などが明らかになりつつあります。

興福寺旧一乗院跡の調査

奈良地方裁判所庁舎建て替えに伴う調査で、6月から9月にかけて実施する予定です。面積約765㎡。宸殿からその北側の池庭にかけての庭園中枢部分の解明が期待されます。なお、当調査予定地に一部重複する形で掘られた昭和38年の調査では、三彩をはじめとした貴重な遺物類が出土し、国の重要文化財に指定されています。

長屋王邸の調査

平城京左京三条二坊二坪における店舗建築に伴う調査。面積約210㎡。7月実施予定。未発掘であった長屋王邸内郭西南部分の調査で、邸宅の全貌がさらにわかってくることが期待されます。

大乗院庭園の調査

財団法人日本ナショナルトラストによる整備と平行して行っている継続調査を本年度は秋に予定しています。ここ1,2年で明らかになりだした西小池部分のさらなる解明と、大池西岸の復原データを得ることが求められます。

平城宮跡の調査

本年は平城宮第二次朝集殿院地区1800㎡の調査を予定しています。南門を含む範囲で、表土掘削